

| | | | | | | | |
|--|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|-----|
| 夜冷施設の効率的利用のためのいちご「とよのか」花芽分化苗の低温貯蔵方法 | | | | | | | |
| <p>【要約】 <u>いちごの夏期低温処理栽培</u>において、夜冷短日処理終了後の苗の貯蔵は温度0℃、貯蔵期間15日間が良く、その場合無処理（無貯蔵）苗と同等の生育、収量が得られる。貯蔵期間が30日以上になると腋芽の花芽分化が遅れ、収量も少なくなる。</p> | | | | | | | |
| 園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室 | | | | | 連絡先 | 092-922-4111 | |
| 部会名 | 園 芸 | 専 門 | 栽 培 | 対 象 | 果菜類 | 分 類 | 普 及 |

【背景・ねらい】

いちごの夏期低温処理栽培における夜冷短日処理は、花芽分化促進効果が安定しているが処理コストの高いことが問題となっている。定植時期を同一にし、夜冷処理施設の利用回数を増加させるための、花芽分化苗の低温貯蔵の好適温度及び期間を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①貯蔵期間が長くなれば、休眠が打破されることによって定植後の生育が過繁茂となり（図1）、腋芽の花芽分化時期も大幅に遅れ（図2）、収量も少なくなる（図3）ので、苗の低温貯蔵期間は15日間程度とする。
- ②貯蔵温度が高くなると、苗の消耗によって収量がやや不安定となる（図4）ので、苗の貯蔵温度は0℃とする。
- ③1回目の夜冷短日処理により花芽分化した苗を0℃で15日間貯蔵し、その間に2回目の夜冷短日処理を行うことによって、2回分の夜冷処理苗を同一時期に定植することが可能となり、夜冷処理施設の2倍利用ができる。

【成果の活用面・留意点】

- ①夜冷短日処理装置を保有する生産者において、花芽分化苗の低温貯蔵技術を導入することによって、低温処理コストの大幅な低減に活用できる。
- ②低温貯蔵期間中の乾燥によるしおれを防止するために、苗の温度が十分下がった後ビニルシート等で苗を被覆する。

[具体的データ]

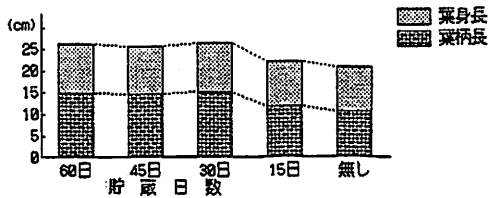


図1 低温貯蔵日数と定植後の葉柄、葉身長 (平成2年)

注) ①貯蔵温度: 0℃
②調査日: 11月22日

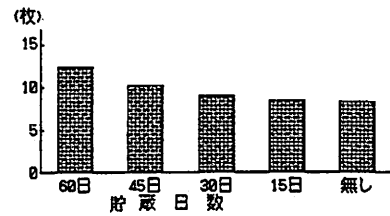


図2 貯蔵日数と腋芽菜数 (平成2年)

注) ①貯蔵温度: 0℃

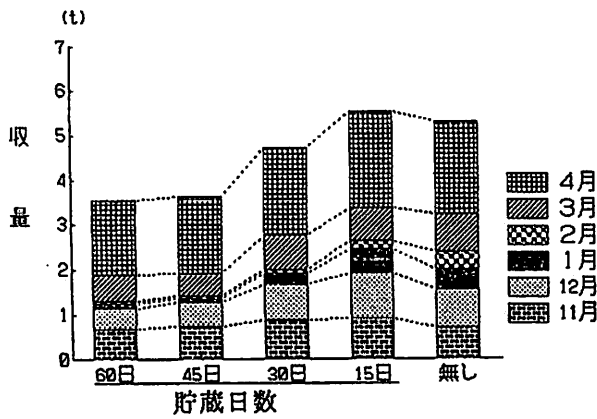


図3 貯蔵日数と月別収量 (平成2年)

注) ①貯蔵温度: 0℃

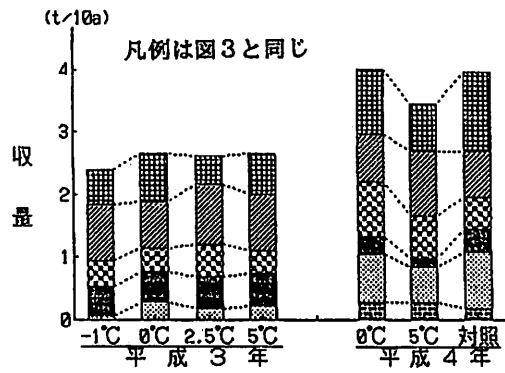


図4 貯蔵温度と月別収量 (平成3, 4年)

注) ①対照: 貯蔵なし

②貯蔵日数: 15日間

③平成3年度収量: 4月中旬まで

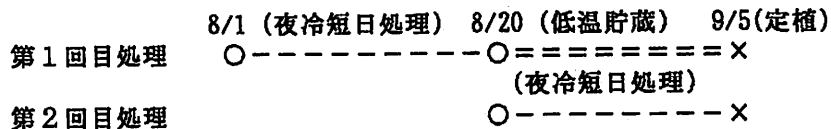


図5 夜冷処理施設の利用例

[その他]

研究課題名: 低コスト夏期低温処理法の開発

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成3~4年)

研究担当者: 伏原 肇、林 三徳、柴戸靖志

発表論文名: 平成3~4年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書